

私たちの暮らし・モンゴル遊牧民の暮らし

徳島県国際交流協会 担当教科/英語

川原 恵子

●実践教科:総合的な学習の時間 ●時間数:2時間 ●対象学年:三加茂中学校 2年生 ●対象人数:90名

授業実践のねらい

- 東日本大震災後、日本に寄せられた諸外国からの支援や見舞いの状況を知り、国際協力の意義について考える。また、日本ではよく知られていないモンゴル国の人々が親日的であることを知り、日本とモンゴルとのつながりを感じることをとおしてモンゴルへの興味、関心を高める。
- 自然と調和して暮らす遊牧民の生活について学び、自分自身の暮らしをみつめ直す。

授業実践の構成

時間	テーマ・ねらい	主な学習活動	使用教材等
第1時	東日本大震災を振り返り、世界とのつながりや国際協力の意義について考える	(1)東日本大震災後の、自分や周りの人、社会の変容を見つめ直す。 (2)世界の多くの国・地域から支援や見舞いが寄せられたことを知る。 (3)生活に必要なもの・大切なものについての個々の考えを共有する。	○スライド [資料1-1~1-5] ○ワークシート [資料3] ○模造紙、ポストイット
第2時	モンゴルと遊牧民の暮らしを知ることとおして自分自身の生活を振り返る	(1)クイズや写真をおしてモンゴル国の基本情報を知る。 (2)〈フोटランゲージ〉写真から、遊牧民の生活を想像する。 (3)モンゴルの子どもの写真、モンゴルの子供達に行ったアンケートの結果を示し、子ども達の様子を紹介する。	○スライド [資料2-1~2-15] ○写真 [資料4-1~4-4]

授業の詳細

第1時 東日本大震災を振り返り、世界とのつながりと国際協力の意義について考える

- (1) 東日本大震災時や震災後の自分の気持ちを振り返るために、震災を伝えるニュースの写真を提示。ワークシート [資料3]に、気持ちとそのような気持ちになった理由を記入した後、それをグループ内で共有した。さらに、「自分・家族や友人など周りの人・社会の震災後の変化」と「震災後、変わりたい・変えていきたいと思ったこと」について個人で考えた後、グループでまとめた意見を全体で共有した。

- (2) 震災後の変化に関連して、私自身が世界とのつながりを実感するようになったことを伝え、震災に対して多くの国や地域から支援や励ましがあつたことを紹介した。その資料として、「震災に際し、日本に援助を申し出た国・地域」や「諸外国・地域・国際機関からの救援チーム等活動場所マップ」などを提示。また、モンゴル研修で知つたモンゴルの人々からの支援や見舞い、それに関するエピソードなどを紹介。
- (3) 震災後、ライフスタイル・家族観・価値観などの変容が広く見られることを確認し、「生きていく上、生活する上で必要なもの・大切なもの」を個人で10個、ポストイットに記入。グループ内で、各自が自分の考えを発表しながら台紙にポストイットを貼る。その後、出た意見を内容によってグループ化し、整理して発表。

生徒の反応

1

①自分、家族や友人など周りの人、社会の震災後の変化について

- 災害に対する備えをするようになった。
- 節電をしたり募金をしたりボランティアをしたり、自分のことだけではなく、他人のことを考えて生活するようになった。
- 自分にさほど関係がなく思えても、他人に助力や協力することに積極的になったと思う。
- 日常の生活の幸せ、命の大切さを改めて感じるようになった。
- 原発反対の人が増えてきた。

②震災後、変えていきたいと思うこと

- 地震など災害の対策を、もっと細かく家族や学校、地域で話し合っていきたい。
- 自分も、どんなささいなことでも被災者のために何かできることを実行していきたい。
- 人と人が助け合うことは素晴らしいと思うので、これからも続けていくようにする。
- 環境問題、原子力発電についてももっと考えて欲しい。

2

各国からの支援に関する感想

- 日本が大変な状況になり多くの国が支援してくれたことは知っていたが、モンゴルのように自分の国も苦しい中、日本を思い支援してくれた国があつたことは知らなかつた。そして、モンゴルの子供達が生活環境は十分でなくても心はずごく豊かだと感じた。自分のことよりも相手を思うのは難しい。モンゴルの子供達が日本を思ってくれていたことにとても感謝だ。
- あの地震が起こつてもう半年があつた。授業をおして、どれだけの国々が日本を助けてくれたのかがあつた。モンゴルの人々が日本へ贈ってくれたあたたかい言葉を見て涙がでそうになった。自分は弱いけれど、少しでも何かの役にたちたいと思う。
- モンゴルの子供達のメッセージやアンケートを見て初めて「日本って愛されているんだなあ?」と実感した。日本に自分たちの給料などを募金してくれるだけでもありがたいのに、さらに日本に尊敬や親しみを感じてもらえるのはすごくうれしい。「日本人に生まれてよかったなあ」としみじみ思った。恩返しとして、モンゴルや他の国で、もし何かあつたら少しでも募金したりしたい。
- 今回の大震災で、こんなに多くの国や人々から支援を受けているとは思わなかつた。決して豊かとはいえないモンゴルからも、たくさんの支援をいただき、とてもありがたい。これからは、争いなどせず世界中のみんなが思いやりをもって助け合つたら、もっと大きな災害や困難がきても、きっと乗り越えられると思う。

【所感】

私が現地研修で感銘を受け、授業で生徒に伝えたいと感じたことの一つは、モンゴルの人々が親日的であり、東日本大震災後多くの人々が日本に見舞いの言葉や支援をくださったことだつた。そこで、東日本大震災を振り返る活動を授業の導入としたが、一方で、気持ちが沈むような活動は参加型の学習の導入としては好ましくないと考えていた。

しかし、震災は生徒にとってもインパクトがあり、身近に感じられる出来事だったためか、真剣に学習活動に取り組む姿が見られた。また、支援される立場から国際協力をとらえることによって、生徒は国際理解・協力についても関心を高め、その意義についても考えることができたようだ。

第2時 モンゴルと遊牧民の暮らしを知ることとおして自分自身の生活を振り返る

(1) モンゴルについてのクイズを交えながら、モンゴルの人々が親日的であることを紹介し、モンゴルの基本情報(地理・人口・文化など)、ウランバートルの街の様子や都市化により引き起こされている諸問題、遊牧民の生活文化などについて簡単に説明した。

クイズ <①~③選択問題>

- ①モンゴルの首都はウランバートルだが、モンゴルの言葉でウランバートルとはどういう意味?
<答え:赤き英雄>
- ②ウランバートル市内では、日本から寄贈されたゴミ収集車が活躍している。収集車が使用している音楽は次のどれ?
<答え:お馬の親子> [資料 2-5]
- ③モンゴルの伝統的な靴の先は上に向いて反りあがっている。なぜか?
<答え:大地を傷つけないようにするため(ただし諸説ある)>
- ④モンゴルは人口のおよそ12%にあたる約327,000人の人々が遊牧生活をしている。遊牧で主に飼われている家畜は5家畜と呼ばれるが、その動物名を答えよ。
<答え:牛、馬、山羊、羊、ラクダ>

(2) 少年の写真[資料4-1]を提示。生徒は、少年が何をしているのかをグループで話し合い、全体で考えを発表しあった。生徒からは、「虫とりをしている」「顔にペインティングをして遊んでいる」「手を洗っている」「顔を洗っている」などの意見があった。その後、正解(顔を洗っている)を告げ、遊牧生活をする人々の水事情を知らせた。遊牧生活では川の水やわき水などを使用することや、毎日水くみをしなければならないことなどを話した。また、ウランバートルのゲル地区でも水道が整備されていないため、人々は、毎日キオスクに水を買いにいかなければならず、それが多くの場合、子どもの仕事になっており、気温が-20℃以下になることもある冬には危険な仕事であることも伝えた。



[資料 4-1]

さらに、「私たちが手を洗う時に使用する水の量がどれくらいか」と問いかけ、その平均的な量と日本人一人あたりの1日の水の使用量を告げるとともに、安全な水資源を利用できる人口の割合を示した地図などを示し、私たちのように水道をひねれば水が得られるという状況が当たり前ではないことを伝えた。

(3) ゲルの室内を撮った数枚の写真[資料4-2~4-4]を提示。それらを見て、日本の家と比較して気づいたこと、その他疑問に思ったことなどをグループごとで話し合った後、全体で意見を共有した。生徒からの意見には次のようなものがあった。

- けっこう広い。 ● 家具や内装がカラフルで家の中が明るい。 ● 家の中にしきりがない。
- カーペットを敷いている。 ● 家の中心に柱がある。 ● ロープやひもがつるされている。
- わりと新しいビニール袋がある。 ● 写真がたくさんかざってある。 ● 家が丸い。
- テレビ、ラジカセ、時計、ベッドがある。 ● 冷蔵庫 ● 洗濯機がない。 ● 煙突がある。
- 生の肉がつるされている。腐らないの? ● 理器具が大きい。 ● おいしそうなお食べ物は何?
- 大量のパンが鍋に入っている。 ● トイレ、お風呂はあるの? ● 水、火はどうしているの?
- 電気はどこからくるの? ● 寒くないのかな? ● 一日中何をしているのか?(仕事や学校は?)
- 移動するとき、どうやってこんなにたくさんのものを運ぶの? など



[資料 4-2]



[資料 4-3]



[資料 4-4]

生徒からの疑問などに答えながら、遊牧生活をする人々が、自然と調和し、無駄な物を持たず簡素に暮らす一方、携帯電話やソーラーシステムなどの科学技術をうまく取り入れて生活していることを紹介した。

(4) モンゴルで出会った子ども達の写真や、訪問した学校などで子どもを対象に行ったアンケート(「自分にとって大切なものを5つ書いてください。」)の結果[資料2-13]を示し、子ども達の生活の様子を紹介した。

生徒の反応

- モンゴルの人たちが、すごく無駄の少ない生活をしていることを知って、自分はどれほど無駄にしているものがあるのか考えさせられた。また、モンゴルの人たちが日本に対して良い印象をもってくれていたことにびっくりし、震災の起きた日本に支援をしてくれたことがすごくありがたいと思った。今までモンゴルのことを知らなかったが、今回の学習でモンゴルの人たちはすごく生き生きとしていて、自分の国が好きなのだということが伝わってきた。
- 今までモンゴルと言えば、相撲ぐらいしか思いつかなかった。今日は、マンホールで生活している子どもがいることや、遊牧生活の様子などを知った。遊牧民は生活の中で消費するものが少なく、日本は恵まれすぎているのかなあと感じた。また、モンゴルの人々が日本に対してすごく親しみをもっていることに驚いた。私たち人間は、自然災害など被害にあって初めて被害者の気持ちが分かるのだと感じた。また、外国について知ることは大切だと思うし、自分の国とは違う文化も理解していかなければいけないと思う。モンゴルの子ども達が「生きていく上で大切なこと」に「夢」をあげていた。私も何か夢をもちたいと思う。
- 人権について深く考える授業だった。モンゴルの人々の暮らしについて分かったことがたくさんあった。特に興味をもったのが、移動しながら住んでいる人々の家だった。余分なものがなく、必要な

ものだけがあって、しかもエコ。なんとなくいいなと思った。住みたくなるほどじゃなかったけど、こんな生活も楽しいと思う。

- モンゴルのことをぜんぜん知らなかったの、おもしろかった。トイレやお風呂がないことに、とても驚いた。ソーラーパネルで発電しているところは、現代的だと思った。モンゴルが、日本に親しみがあることを初めて知り、うれしかった(日本語を勉強していることなど)。また、マンホールの中で暮らしている子ども達がいることを聞いて、早く施設などで暮らせるようにしてあげたいと思った。
- ぼくは、普段、節電や節水をしている方だと思うけど、モンゴルの人たちは自分よりもっともっと節約していて感心した。日本もモンゴルのように節約大国になればいいと思った。
- モンゴルの人たちは、家族や友のことをとても大切にしていることに比べ、日本では少し冷たい回答や合理的?な考えをする人が増えていると思った。本当に大切なものは物質なのかと、もう一度考えさせられた。
- モンゴルやいろんな国から地震で被災した人に支援物資などを送ってくれたことに、あらためて感謝した。日本は便利すぎて原発で被害を受けた。モンゴルは、無駄なものほとんどなく自然と共有して生活している。そんな生活もしてみたい。日本は恵まれすぎていると思う。
- 友達を思いやる心をもつことを学んだ。モンゴルの人には親日派の人が多く、国民が日本に好感を持ってきていたのがうれしかった。スライドの最後に、モンゴルの子どものキラキラ輝いた笑顔を見て、自分もすごく笑顔になれた。

【所感】

震災後、社会ではライフスタイルについての意識の変容がみられるものの、多くの日本人はあふれるモノに囲まれて便利さを追求する生活をしている。授業では、このような環境に生きる生徒たちに、遊牧民の簡素でモノにとらわれない暮らしの魅力を感じることをとおして、自然にあまり付加をかけない持続可能なライフスタイルについて考えさせたかった。

生徒は、フォトランゲージの活動では特にゲルに興味を示し、「ひもがたくさんある」「部屋のしきりがいい」など当たり前のことだが遊牧民の暮らしと結びつく詳細な事柄に気づき、積極的に意見や疑問を発表した。また、多くの遊牧民の家庭がソーラーパネルや携帯電話をもっていることを伝えると、みな驚きの声をあげていた。上下水道の設備などない住居に暮らす遊牧生活には当然多くの不便さがあるが、子ども達はその不便さも理解した上で、その生活に魅力を感じ、また、持続可能な暮らしのヒントを見いだしたり、自分自身の生活を振り返ったりすることができたようだ。

授業実践を終えて(成果と課題)

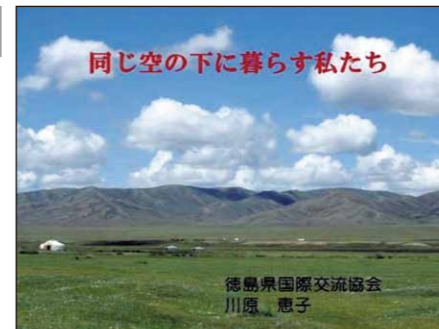
今回の実践授業は、他の教科など関連のない授業だったので、生徒にどれくらい興味をもたせることができるか、また、生徒にとって学びのある時間とできるかどうか不安な気持ちで授業にのぞんだ。しかし、モンゴルや異文化・国際協力に対する関心を少しはもたせることができたようだ。特に、現地を訪れて得た情報や画像などは、生徒の興味を高め、学びを促進する有効な教材だと感じた。

一方、どんな主題やねらいの授業であっても、継続的な学習に位置づけられたものでなければ、生徒の本当の学びには結びつきにくい。国際理解教育では様々なテーマをあつかうことができ、他の教科とも関連づけやすい。今後は、教科や特別活動などの学習の中に、そのねらいにリンクした国際理解教育の学習を取り入れることにより、計画的・継続的に実践を行っていきたいと思う。

使用教材

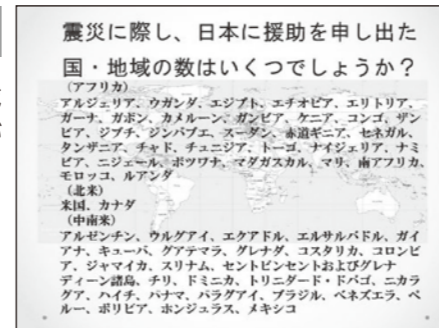
[資料1][資料2] スライド教材<抜粋>

1-1



1-3

163の国と地域から支援表明があった



1-5

世界から元気を届けるメッセージプロジェクト (JICAボランティア有志)



2-2

日本に関するアンケート(「わかる国際情勢」外務省)



2-4

都市化により引き起こされる諸問題



1-2



1-4

諸外国などの救援チーム活動場所



2-1



2-3



2-5

モンゴルクイズ②



2-6

モンゴルの全人口は...
 およそ270万人
 日本の4倍の土地に暮らす
 そのうち
 遊牧生活をしている人は...
 およそ327000人
 全家畜の頭数は
 およそ...
 337333333頭

2-7

遊牧民の暮らし

2-8

水くみ

地方では、川の水や湧水を利用します。ウランバートルのゲル地区には、給水キオスクがあります。水汲みや水を買いに行く仕事は、多くの場合、子どもたちがします。

2-9

移動式住居：ゲル

ゲルの天窓（トーチ）ここから入る陽射しがつくる影の移動で時間を覚えることができました。

2-10

テクノロジーと自然を活用してエコな生活...

どのゲルにも見られたソーラーパネル

2-11

テクノロジーと自然を活用してエコな生活...

料理するための燃料は家畜の糞

2-12

多くの民族は、物を蓄積することに価値を見出す。かつて世界の5分の3を支配したモンゴル帝国の遊牧民は、生活からあらゆる無駄なモノを省き生活した。今もその精神が息づいている。

2-13

新モンゴル高校

アンケート(あなたにとって大切なものは?)

家族・両親(1・親戚)	19	自然と地球	2
友達・友情	17	<その他>	1
夢	10	自由と世界の平和	
健康	7	尊敬の心/心	
教育・知識・学校	10	趣味/クラシック音楽/建築	
母国(モンゴル)	4	人間としての幸せ(道徳・規律)	
名誉	2	命	
お金・財産	1	成功	
愛	2		

2-14

モンゴルで出会った子どもたち

笑顔との出会い

2-15

Баярлалаа.

[資料3] ワークシート

1 東日本大震災とその後のニュースを聞いたり見たりして、あなたの気持ちは・・・?

* 下の中から、当時の自分の気持ちにもっとも近かったものに3つ〇をつけましょう。

* リストにない自分の気持ちは、空欄に書きましょう。

悲しい	無力感	興奮している
怒っている	不安になった	くやしい
わけがわからない		心配
かわいそう	おどろいた	何か役に立ちたい
どうにもできない	こわい	ありがたい

それらを選んだ理由を書いてください。

2 震災以前と比べ、「変わった」と思うこと。また、「変えていきたい」と思うこと。

* 「変わった」こと

開発教育協会「Global Express サンプル版14号 東日本大震災世界からの援助」より

参考資料

[書籍]

フォトエッセー 青空の国モンゴル R.GOTSBAYAR Mongolguide Ecotravel Co.Ltd.

[インターネット]

開発教育協会 Global Express サンプル版14号 東日本大震災世界からの援助
<http://www.dear.or.jp/ge/index.html>

外務省:わかる国際情勢<モンゴル~よき隣人としての絆~>より
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol65/index.html>

外務省:諸外国・地域・国際機関からの救援チーム・専門家チーム活動場所一覧(9/15)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/pdfs/katudouitizu.pdf>

外務省:諸外国等からの物資支援・寄付金一覧
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/pdfs/bussisien.pdf>

なんとかしなきゃ!プロジェクト みずごせない155億人 実行委員会 ホームページ
http://www.mnto.org/v2/index.php?option=com_content&view=frontpage&Itemid=2&lang=ja

国連人道問題調整事務所(OCHA) Financial Tracking Service
<http://fts.unocha.org/pagelader.aspx?page=home>

[JICA ボランティア有志]世界から元気を届けるメッセージプロジェクト
<http://www.worldmessage.jp/>

江草拓ホームページ「私のどこでも散策記録」モンゴルのカラコルム・ナーダム祭
<http://www.bbweb-arena.com/users/et/mongolia/mongolia.htm>

国連人口基金東京事務所 世界人口白書2010(日本語版)
<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00016>

海外メディアのサイトを中心とした東日本大震災関連の写真
<http://www.volunteer-info.net/earthquake-photo.html>